

英語

教科の特徴 外国語を通じて言語や文化について学び、外国語によるコミュニケーションの姿勢と技能を身につける。

学習目標

	高1	高2	高3
学習概要	高校英語の基礎を学ぶ。	高校英語の基礎を定着させる。	応用力を高める。
学習内容	基本的な語彙、表現、文法、発音、論理展開について一通り学ぶ。	より難度の高い教材で4技能(「読む」「聞く」「話す」「書く」)を高め、基礎を定着させる。	国公立2次試験や難関私立大レベルの教材を用い、入試に直結した演習を行う。
学習方法	英語の授業は「予習→授業→復習」の「黄金サイクル」で進む。 授業の予習・復習は必ず行うこと。文法的解釈、語彙調べ等を行い、音声を用いて音読練習を行い授業に臨む。授業は、英語を使用する貴重な場である。限られた時間を十分に活用して、英語を聞き、話し、疑問点を解決するために主体的に質問や発言をする。学習内容の定着には復習が欠かせない。その日のうちに、学習事項の再確認、音読、シャドーイング等、復習を行う。 自学教材は、英語の読み物、単語集、文法書、演習問題集などがある。原則として授業では扱わないが、考査等で出題されるので、計画的に学習する。		

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)		到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)	
1年4～7月	英語コミュニケーションⅠ教科書	<ul style="list-style-type: none"> 論理表現Ⅰ教科書 文法教材 	<ul style="list-style-type: none"> 単語集 	<ul style="list-style-type: none"> 平易な構造、内容の文を読み、正しく内容を理解することができる。 日常的な話題について、自分の考えを簡潔な英語で述べることができる。(CEFR A2レベル) 	<ul style="list-style-type: none"> 平易な構造、内容の文を読み、要点・論旨をとらえ、要旨をまとめたり、自分の考えを簡単にまとめ、論理的に述べたり書いたりすることができる。(CEFR B1レベル)
1年夏休み					
1年9～12月	英語コミュニケーションⅡ教科書	<ul style="list-style-type: none"> 論理表現Ⅱ教科書 文法教材 	<ul style="list-style-type: none"> Oxford Bookworms Level 1～6 など 英語読み物 計18冊程度 	<ul style="list-style-type: none"> やや発展的な構造、内容の文を読み、要点・論旨をとらえることができる。 日常的な話題について、自分の考えを述べることができる。(CEFR B1レベル) 	<ul style="list-style-type: none"> やや発展的な構造、内容の文を読み、要点・論旨をとらえ、要旨をまとめたり、自分の考えをまとめ、意見を論理的に述べたり書いたりすることができる。(CEFR B2レベル)
1年冬休み					
1年1～3月					
2年春休み					
2年4～7月	英語コミュニケーションⅢ教科書	<ul style="list-style-type: none"> 論理表現Ⅲ教科書 Writing 演習 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習を目的として書かれた文を読み、要点・論旨をとらえることができる。 日常的な話題について、意見の交換をすることができる。(CEFR B1レベル) 	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある分野の記事や資料を読み、要点をとらえ、要旨をまとめたり、自分の考えをまとめ、意見を論理的に述べたり書いたりすることができる。 日常的な話題について、考えていることを十分に表現して意見の交換をすることができる。(CEFR B2レベル) 	
2年夏休み					
2年9～12月	大学入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 入試問題実践演習 ※2月～家庭研修 			
2年冬休み					
2年1～3月					
3年4～7月					
3年夏休み					
3年9～12月					
3年冬休み					
3年1～3月					

数学

教科の特徴

数学的活動を通して、思考力・論理力を高める。

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)
学習概要	基礎を固める。	基礎を応用に活かす。	創造的に思考し、論理的に表現する。
学習内容	数学Ⅰ・A・Ⅱの内容を理解する。	数学Ⅱ・B・Cの内容を理解する。 【理系】数学C・Ⅲの内容を理解する。 【文系】数学ⅠAⅡBCの基礎を復習する。	【理系】数学Ⅲの内容を理解する。問題をあらゆる角度から捉え、別解を考えながら、理解を深める。自分の考えを論理的に記述する。 【文系】問題をあらゆる角度から捉え、別解を考えながら、理解を深める。自分の考えを論理的に記述する。
学習方法	授業進度に合わせて、教科書・4STEP・青チャート等を活用し予習復習を自分で考えて行う。	1年生の時と同様に、授業進度に合わせて、予習復習を行う。 α として、青チャートで1年生の内容の復習および発展問題に取り組む。	授業中に取り組んだ演習問題を踏まえて、青チャートで足りない部分の学習や、さらなるレベルアップを試みる。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)		
1年前期	数学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・公式を成り立ちから理解し、利用して問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら応用問題(青チャートコンパス④、⑤)に挑戦する。(単元毎の数学的知識を体系的に理解し、多種多様な問題に意欲的に取り組むことができる。) 		
1年夏休み	前期の復習、発展学習				
1年9～12月	数学A、数学Ⅱ(～図形と方程式)				
1年冬休み	9月～12月の復習、発展学習				
1年1～3月	数学Ⅱ(～指数関数と対数関数)				
2年春休み	1月～3月の復習、発展学習				
2年前期	数学Ⅱ、数学B	<ul style="list-style-type: none"> ・【理系】公式を成り立ちから理解し、利用して問題を解くことができる。 ・【文系】数学ⅠAⅡBCの基礎を固める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【理系】自ら応用問題(青チャートコンパス④、⑤)に挑戦する。 ・【文系】別解を作り出す。(単元毎の数学的知識を体系的に理解し、意欲的にそれを活用することができる。) 		
2年夏休み	前期の復習、発展学習				
2年9～12月	数学C(ベクトル)				
	【理系】数学C(～式と曲線) 数学Ⅲ(関数)				
2年冬休み	9月～12月の復習、発展学習				
2年1～3月	【理系】数学Ⅲ(～微分法)				
	【文系】数学ⅠAⅡBCの復習				
3年前期	【理系】数学Ⅲ			<ul style="list-style-type: none"> ・問題の意図を理解し、正しく式を作り、解くことができる。 ・自分の考えを論理的に記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの問題をあらゆる方面から捉える。(単元の知識を横断的に理解し、問題毎にその特性を活かして解答を導くことができる。)
3年夏休み	【文系】コース別演習 夏期講習				
3年9～12月	秋期講習、添削指導				
	【理系】入試問題演習 【文系】コース別演習				
3年冬休み	添削指導				
3年1～3月	【理系】入試問題演習				

国語

教科の特徴 言葉を用いたものの見方・考え方を学び、言語活動を通して的確な理解力と効果的な表現力を磨く。

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)
学習概要	基礎となる国語力を身に付ける。	論理的思考と教養を磨く。	創造的に思考し、論理的に表現する。
学習内容	・言語を適切に扱う知識・技能。 ・様々な文章を読み、的確に理解し、思考・表現すること。 ・言語感覚を磨き、国語の能力の向上を図る姿勢。	・歴史・文化・思想などへの理解も含めた言語知識・技能。 ・様々なものの見方・関係性から、思考・判断・表現すること。 ・自らの感性、課題に基づき、国語力を磨く姿勢。	・歴史・文化・思想などへの理解も含めた言語知識・技能。 ・多角的・多面的・創造的に思考し、論理的に表現すること。 ・国語力をもとに学問への探究を深める姿勢。
学習方法	基礎的な能力を身に付けるために、予習・復習を必ず行う。特に古典分野は予習にも力を入れて、 文法解釈、語彙調べ、逐語訳、音読練習 をしておくこと。文章理解については、 授業で学んだことをふまえて必ず復習する 。辞書や便覧等を参考に、言葉の使い方・文章構成などを自分なりに整理する。また、関連した書籍にあたるなどして、自ら学びを深めていくこと。	授業進度に合わせて、予習・復習を行う。特に古典分野では、予習をすることで、 自分の課題や疑問点を整理しておくこと 。さらに、 復習を徹底し、言語文化に対する本質的な理解 を目指す。また、授業で精読した文章をもとに、自分なりの問いを立て、社会・科学・文化・思想等に対する考えを深める中で、思考力や表現力を伸ばしていくこと。	自分の課題に合わせた予習・復習を行う。様々な文章・資料・問いに対して、柔軟に思考し、課題の要求に的確に対処していけるようにすること。その中で、自分なりの視点を築き、他者との関わり方を円滑にするための論理性や表現について、考え続けること。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	【評論】論理や構造を考える文章 【古文】基礎的な物語、説話など 【漢文】故事成語など 【小説】小説構造を理解する作品	・知識事項の基礎を理解する。 ・文章の論理や構造を読み取る。 ・言語文化に対する興味・関心を持つ。	授業で扱った文章をもとに、他の文章と比較したり、関連づけを積極的に行い、言語文化の特質について理解する。
1年夏休み	前期の復習、発展学習		
1年9～12月	【評論】様々な分野の文章 【古文】日記、物語など 【漢文】史話、漢詩など 【小説】心情理解を深める作品	・知識事項の基礎を作り、作品理解に挑戦する。 ・文章の論理や構造を読み取り、筆者の独自性や創造性を理解する。 ・言語文化に対する自分なりの視点を持つ。	様々な文章について、関連づけや比較分析をおこない、そのテーマに対する自分なりの考えを持つ。また、言語文化について、社会的背景や他の文化との連関から説明できる。
1年冬休み	文法事項の整理、発展学習		
1年1～3月	【評論】抽象的な分野の文章 【古文】日記、随筆、物語など 【漢文】物語、思想など 【小説】関係性を捉える文章など		
2年春休み	1年次の復習、発展学習		
2年前期		・知識事項の基礎を完成させる。 ・作品に書かれたものを、社会や文化の視点から、読み深める。 ・文章を適切に読解し、自分なりの考えで表現する。	多種多様な文章を読み、内容を的確に理解した上で、その問題点や疑問点を整理し、自分の課題に繋げたり、論理的に批評したりする。
2年夏休み	【評論】広い視野を持つための文章		
2年9～12月	【古文】日記・随筆・物語など		
2年冬休み	【漢文】史話、小説、思想など		
2年1～3月	【小説】近代や現代を捉える小説		
3年前期		・多角的・多面的・創造的に自分の考えを形成する。 ・自身の言語に関する諸活動と結びつけつつ、論理的に表現できるようにする。	適切な言語表現、言語文化の継承についての視点を持ち、言語文化の提示する課題を、社会や自身と結びつけながら探究する。
3年夏休み	【現代文】近現代の文章、問題演習		
3年9～12月	【古文】長編作品、問題演習		
3年冬休み	【漢文】多種多様な文章、問題演習		
3年1～3月	【小説】近現代の作品、問題演習		

地理歴史(地理)

教科の特徴 世界の多様な自然環境や文化を学び、地球的課題の解決や持続可能な開発目標の実現方法を考察する。

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)
学習概要		世界の多様な自然環境や文化を理解し、人類が抱える地球規模の課題解決法を考える。また、我が国の自然を知り、防災意識を高める。	自然環境や社会環境についての法則性を見いだすとともに、世界各地の地理的事象を比較する。
学習内容		地図の活用・世界の自然環境と社会環境・地球的課題と国際協力・我が国の自然環境と防災	系統地理・世界地誌
学習方法		教科書の精読・授業の復習	教科書の精読・授業の復習・問題演習

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期			
1年夏休み			
1年9～12月			
1年冬休み			
1年1～3月			
2年春休み			
2年前期	地図と地理情報システム 結びつきを強める現代世界	地理的な見方・考え方を身につける。	GISの活用能力を高める。
2年夏休み			
2年9～12月	生活文化の多様性 自然環境と防災	多様な自然を理解し、防災意識を高める。	我が国の防災、減災について考える。読図能力を高める。
2年冬休み			
2年1～3月	地球的課題と国際協力	資源エネルギー・人口・都市問題について現状を理解する。	現代社会の諸問題を学び、将来のあるべき姿を模索する。
3年前期	系統地理的考察	自然環境、産業、人口と都市、生活文化と民族、宗教などについて、一般的な法則性を見いだす。	国連が掲げる持続可能な開発目標実現のために、それぞれの立場でできることを模索、行動する。
3年夏休み	夏季講習		
3年9～12月	地誌的考察・秋季講習	国や国家群などの地域的枠組みから世界の諸地域に見られる地理的事象を比較する。	地域性が生まれる背景を考え、地理的視野を広げる。
3年冬休み			
3年1～3月			

地理歴史(歴史)

教科の特徴

個々の歴史事象を踏まえつつ、歴史的な見方・考え方を働かせて構造的・系統的に日本や世界の動きを把握する視点を重視し、学習を進めるとともに前提となる知識についても整理し、理解を深める。

学習目標

	高1	高2	高3
学習概要	【歴史総合】人類史を通じて日本と世界の関わりを踏まえつつ、近現代史の理解を深める。	【日本史探究(選択)】前近代の日本史について、歴史総合で学んだ視点を活かして理解を深め、課題を追究し解決する力を養う。	【世界史探究(選択)】前近代以降の世界史について、歴史総合で学んだ視点を活かして理解を深め、課題を追究し解決する力を養う。 【総合日本史(選択)】日本史探究に引き続き、近世以降の日本史について理解を深め、課題を追究し解決する力を養う。
学習内容	・前近代の世界の諸地域の政治・経済・社会制度や文化的枠組みの形成過程の概要を学び、現在の世界におけるシステムや思考様式、文化の基盤の理解に必要な基本的知識を学ぶ。 ・近代史・現代史について、世界の動きと密接に関連づけ、日本の歴史の重要項目とその背景を理解し考察する思考力を育てる。 ・現代世界の諸問題を整理し、その内容と背景を理解する思考力をつける。	・1年次の歴史総合を踏まえ、前近代の日本史の歴史展開について史資料に基づき学び、現代の日本文化の基盤について理解を深める。 ・歴史的な見方・考え方を発揮して、人々の営みや地域、世界にそれぞれの歴史事象が与えた影響について考察する。	【世】1年次の歴史総合を踏まえ、近現代に展開した世界の諸地域の動きについて、その背景や影響を理解し、考察を深める。 【日】2年次の日本史探究を踏まえ、近世以降の日本史を中心に世界の歴史と関連付けながら理解を深め、史資料をもとに考察・論述する力を養う。
学習方法	教科書・配布プリント・副教材等を活用する。積極的に授業に集中して理解を進め、自発的に予習・復習をおこなう。		

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	【歴史総合】近代以前の世界の歴史(大航海時代以前)	前近代の世界の歴史を理解するうえで重要な概念(国家、政治、経済、文化)などを理解しており、定着させることができている。	前近代に形成された諸地域の国家、政治、経済、文化が、相互に関連性を生じさせた諸事項について、交流という視点をもって理解できている。また、それらが、後世に与えた影響について考察できる。
1年夏休み			
1年9～12月	【歴史総合】世界の近代史と日本	日本の状況をふまえつつ、近代以降の世界の歴史過程について、諸地域の動向と関連づけながら理解できている。基本的概念が定着している。	近代化の過程について、日本の状況をふまえつつ、世界の諸地域の動向を理解したうえで、整理し、的確に説明することができる。
1年冬休み			
1年1～3月	【歴史総合】世界の現代史と日本	前近代・近代の学習内容をふまえて、現代史の重要概念や現在の世界の構成する諸要素が理解できている。	現代世界(日本)の諸課題について、歴史的な視点にたち、主体的に分析し、自ら判断して意見を持つことができる。
2年春休み			
2年前期	【日本史探究】原始・古代の日本	古代の日本列島における歴史的な展開について、史資料をもとに学び、周辺地域への影響について考察することができる。	周辺地域世界の動向と日本国内の動きを、東部ユーラシア世界の動向としてとらえるとともに時代を通観した視点から多面的・多角的な観点で仮説を立て、考察することができる。
2年夏休み			
2年9～12月	【日本史探究】中世の日本	中世日本の歴史・文化について史資料をもとに学び、理解を深める	
2年冬休み			
2年1～3月	【日本史探究】近世の日本	近世日本の歴史・文化について史資料をもとに学び、世界とのつながりについても考察することができる。	
3年前期	【世界史探究】前近代の世界史・近代世界の成立と発展 【総合日本史】近世・近代の日本史の展開	【世】歴史総合での学習を踏まえ、前近代の世界史の展開を理解し、近代世界の展開を広い視野でとらえることができる。 【日】歴史総合・日本史探究を踏まえ、近世以降の日本史の歴史的展開を広い視野でとらえることができる。	【世】【日】史資料に基づき、歴史的な見方・考え方を働かせることで、歴史事象が人々の営みや現代の諸課題、異なる地域世界への影響について多面的多角的に考察することができる。
3年夏休み	夏期講習		
3年9～12月	【世界史探究】現代の諸地域世界の展開・問題演習 【総合日本史】近現代の日本史の展開・問題演習	【世】現代の諸地域世界の動向に理解を深め、現代社会の抱える課題について歴史的観点から考察することができる。 【日】現代日本の動向について理解を深め、グローバルな視野に立つてこれからの日本について歴史的観点から考察することができる。	
3年冬休み			
3年1～3月	総合的問題演習・家庭研修	【世】【日】これまでの学習を踏まえ、世界や日本の歴史的展開を様々な観点から整理し、適切に表現できる。	【世】【日】適切に史資料を取り扱いながら世界や日本の歴史的展開を様々な観点で整理するとともに、幅広い視野に立つて表現することができる。

公民

教科の特徴 グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な市民的資質を育成する。

学習目標

学年	高1(基礎)	高3(探究)	
科目	公共	倫理	政経
学習概要	生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新など厳しい挑戦の時代を迎える中で、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り開いていくために必要な資質や能力を身に着ける。	「私とは何か」「人間とは何か」という根源的な問いを基底として、西洋・東洋それぞれの潮流における先哲たちの思考を広くかつ深く学ぶことで、さまざまな概念と理論を習得し、自らの「生き方」を考察するとともに、あるべき社会の「在り方」を構想する。	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の政治、経済、国際関係の動向や本質に関わる諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に着ける。
学習内容	幸福、正義、公正など人間と社会のあり方についての見方・考え方・理論を活用し、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追求する。	・心理学、哲学、社会学、宗教学など人文社会科学の知見の基礎的な知識を学ぶ。 ・原典を読み解き、概念と理論の内包と外延を協働で考察する。 ・それらの概念と理論を通して、自己及び社会を多角的に考察する。	・現代日本の政治や経済、国際政治、国際経済、現代社会の諸課題について専門的に知識を深める。 ・時事的なできごとを考察し共有する。 ・諸資料から必要な情報を収集し、考察し議論する。
学習方法	・法・政治・経済などの基礎的な知識を習得する。 ・日頃からニュース報道や新書などを通して、社会の諸事象に興味・関心をもつ。 ・授業で扱うテーマを、自身のあり方生き方と結びつけて考える ・クラスメートの発表や意見交換を通して自身の思考を深めるよう掛ける。	・教科書、資料集を通して、基本的な考え方を学ぶ。 ・原典や新書などの入門書を読み解き、理論を分析的、総合的に考察する習慣を身に付ける。 ・思考実験や時事的な課題探究を通して、自己と社会のビジョンを構想する。	・教科書レベルの法・政治・経済などの基礎的な知識を定着させる ・日頃からニュース報道や新書などを通して、社会の諸事象に興味・関心をもち、分からない語句は調べる習慣をつける。 ・法・政治・経済などの事象を地理的な広がりや、歴史的背景との繋がりを意識して理解する ・クラスメートの発表や議論を通じて、自分の意見を批判的に検討してみる。

主な学習項目と到達レベル

公共	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	公共の法的な主体となる私たち	・幸福、正義、公正などに着目して、公共的な空間における基本的原理を用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任について理解する。	・学習した考え方をを用いて、よりよい社会の実現に向けて、現代の諸課題を具体的かつ主体的に解決しようとする。
1年夏休み			
1年9～12月	法的な主体となる私たち 政治的な主体となる私たち 経済的な主体となる私たち	・司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・経済的な主体としてのあり方を理解する。	・学習した考え方をを用いて、具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
1年冬休み			
1年1～3月	経済的な主体となる私たち 持続可能な社会づくりの主体となる私	・経済の基本的な理解を用いて、公正かつ自由な経済活動を行うことを通じて現実社会の事柄や課題について考察することができる ・市場経済のシステムや政府の役割などを理解し、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	・学習した考え方をを用いて、具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

倫理	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
3年前期	西洋思想史及び心理学・芸術論	前期で扱う知識の基本的な概念・理論を習得する。	前期で扱う概念・理論を多様な事象に応用して、批判的に考察する。
3年夏休み	演習問題	前期・「公共」の基本的な問題を解けるようにする。	前期・「公共」の応用問題を解けるようにする。
3年9～12月	東洋思想史及び現代の諸課題	後期で扱う知識の基本的な概念・理論を習得する。	後期で扱う概念・理論を多様な事象に応用して、批判的に考察する。
3年冬休み	問題演習		
3年1～3月	問題演習		

政経	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
3年前期	民主政治の基本原則と日本国憲法 現代の国際政治と日本	基本的な概念・理論・知識の習得	現代の政治に関わる事柄から課題を見つけ、広い視野に立って考察できる
3年夏休み		前期・公共の復習	
3年9～12月	現代経済のしくみと特質 国民経済と国際経済	基本的な概念・理論・知識の習得	現代の経済に関わる事柄から課題を見つけ、広い視野に立って考察できる
3年冬休み	問題演習		
3年1～3月	問題演習		

理科(物理)

教科の特徴 物理的な事物・現象を題材とした講義、討論、実験などを通して、科学的な自然観および論理的思考力を身につける。

学習目標

	高1	高2(文理別)	高3(応用・演習)
学習概要	物理チャレンジや科学の甲子園等への参加を希望し、早期に学習を開始する必要がある者は、物理担当教員まで申し出る。	【文理共通】 理想化した条件の下で、自然現象が単純な数式を用いて表現できることを学ぶ。 【理系】 力学・熱については基礎的な単元を、波動については高校物理の全範囲を学ぶ。	【文系】 物理基礎の復習・演習を行なう。 【理系】 高2で学んだ内容を土台として、力学と熱の単元を完成させる。続く電磁気と原子の分野は、全範囲を高3で学ぶこととなる。
学習内容		大宮高校ホームページ > 学校案内 > シラバス・教科書を参照のこと。	
学習方法		授業への主体的な取り組み(疑問を持つ・仮説を立てる、討論する、質問する)を通して物理の正しい概念を獲得する。理解のあやふやな部分については、授業の復習や教科書の精読、問題演習を通して、その都度解消する(既習の単元の上に新しい概念を構築していくので、土台が不安定だと後の理解に深刻な影響をおよぼす)。	

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
2年前期	教科書： 【文系】物理基礎 【理系】物理基礎、総合物理1・2 問題集： 【文系】ニューグローバル 【理系】セミナー 授業： 【文系】力学 【理系】力学	【文理共通】 * 全学習分野に共通 物理の記号や言い回しに慣れ、数式や図、グラフを必要に応じて使い分け、標準的な問いについて理解したうえで、解答できる。 【物理の理解≠公式に当てはめて解を得る】であることに注意。	<p>高校物理で初学者が多くがつかずポイントとして、空気抵抗や面の摩擦が無視できる理想的な運動が、実際の自然現象と感覚的に合わないということが挙げられるだろう。それでは、高校の物理を学ぶことは意味がないのだろうか？</p> <p>その答えは、もちろん「否」である。自然の現象は、数多くの要因が複雑に関連し合いながら生じている。そこから余計な要因を排し、より本質的な部分に焦点を当てると、普遍的に成り立つ法則が姿を現す。この主に数式で記述される法則を物理法則という。</p> <p>例えば、ハンマーと鳥の羽根は、空気中での落下の様子は著しく異なっているが、月面(真空中)での落下は同一の物理法則に従うことがわかる。 →https://apod.nasa.gov/apod/ap111101.html</p>  <p>これとは反対にいくつかの物理法則を適切に組み合わせ、複雑な現象を説明できることもある。上位者への第一歩は、物理法則の適用範囲を知り、その法則の成り立ちを説明(定式化・言語化)できるレベルに達することである。</p>
2年夏休み	2年前期の復習		
2年9～12月	【文系】力学、熱、波動 【理系】力学、熱、波動		
2年冬休み	9～12月の復習	既習単元の復習	
2年1～3月	【文系】波動、電磁気、エネルギー 【理系】波動、力学	【理系】 音や光を波として捉え、諸現象を説明できる。	
3年春休み	総復習	既習単元の総復習	
3年前期	【文系】2年次の復習・演習 【理系】力学、熱力学、電気	【理系】 既習分野を土台としてより発展的な分野を学び、標準的な問いを理解する。 電荷と電場の関係(ガウスの法則)・電位の理解。	
3年夏休み	総復習、夏期講習	既習単元の総復習	
3年9～12月	【文系】2年次の復習・演習 【理系】電気、磁気、原子 【共通】共通テスト対策演習	【理系】 電場・磁場と力の関係や、電磁誘導、直流回路や交流回路と回路素子などを体系的に理解する。 既習単元の知識を土台とし、前期量子論の構築に寄与したアイデアや歴史的実験を理解する。	
3年冬休み	演習	【文理共通】 共通テスト対策や大学個別試験の良問演習を通して、高校物理への理解を確固たるものにする。	
3年1～3月	演習		

理科(化学) ※進捗などは普通科のものになります。理数科は、授業数が多いため普通科より進捗が早くなります。

教科の特徴 物質とその変化について理解するとともに、化学的な事物・現象を科学的に探求する力を養う。

学習目標

	高1	高2(文理別)	高3(応用・演習)
学習概要	化学の基礎を固める。	化学の基礎を固める。	【理系】 化学の基礎を固め、応用に活かす。 【文系】 化学基礎の復習と演習を行う。
学習内容	化学基礎の内容(化学結合・物質質量)を理解する。	【文理共通】 化学基礎の内容(酸・塩基、酸化還元)を理解する。 【理系】 化学の内容を理解する。(9月～)	【理系】 化学の内容を理解する。(～9月) 入試に直結する問題演習を行う。 【文系】 大学入学共通テストの演習を行う。
学習方法	授業進度に合わせて、復習・演習を行う。 セミナーで基本・発展問題に取り組む。		【理系】 2年次と同様、授業進度に合わせて、復習・演習を行う。セミナーで基本・発展問題に取り組む。加えて重要問題集を進める。 【文系】 授業の復習をしてチェック&演習を進める。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	教科書: 化学基礎 問題集: セミナー 化学結合		自ら応用問題に挑戦する。また、別解を作成ができる。
1年夏休み			
1年9～12月	物質質量		
1年冬休み			
1年1～3月 2年春休み	化学反応式と量的関係 1年の復習		
2年前期	教科書: 【理系】化学基礎・化学 【文系】化学基礎 問題集: セミナー 【理系】酸と塩基・酸化と還元 【文系】酸と塩基	【文理】 化学を論理的に理解し、基本的な問題に取り組む。	【文理】 自ら応用問題に挑戦する。また、別解を作成ができる。
2年夏休み	2年前期の復習		
2年9～12月	【理系】電池・電気分解、気体、溶液 【文系】酸化と還元		
2年冬休み	9～12月の復習		
2年1～3月	【理系】化学反応と熱・光、有機化学 【文系】酸化と還元、1・2年次の復習		
3年前期	教科書: 【理系】化学 【文系】化学基礎 問題集: セミナー 【理系】重要問題集 【文系】チェック&演習 【理系】有機化学、反応速度、化学平衡、高分子化学 【文系】2年次の復習	【理系】 化学を論理的に理解し、基本的な問題に取り組む。 【文系】 化学の基礎を固める。	【理系】 自ら課題を発見し、課題に取り組める。 (単元毎の化学的知識を体系的に理解し、意欲的にそれを活用することができる。)
3年夏休み	【理系】夏期講習		

3年9～12月	<p>【理系】無機化学 大学入試演習</p> <p>【文系】大学入学共通テストの演習</p> <p>【理系】秋期講習</p>	<p>【文理】 問題の意図を理解し、正しく式を作り、 解くことができる。</p> <p>【理系】 自分の考えを論理的に記述する。</p>	<p>【文理】 問題の意図を理解し、正しく式を作り、 解くことができる。</p> <p>【理系】 一つの問題をあらゆる方面から捉え、 論理的に記述する。 (単元の知識を横断的に理解し、問題 毎にその特性を活かして解答を導くこと ができる。)</p>
3年冬休み			
3年1～3月	【理系】直前講習・添削指導		

理科(生物)

教科の特徴 **生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、観察や実験を通して科学的に探究する力を養う**

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)
学習概要	生物基礎の範囲を中心とした内容の習得	生物基礎の範囲を中心とした内容の習得	【理系】 生物の範囲を中心とした内容の習得 【文系】 生物基礎の復習と演習
学習内容	生物基礎第1編、2編。関連して生物第3編「遺伝情報の発現」	生物基礎第3編および生物第1編	【理系】 生物第2編、3編「発生と遺伝子発現」、4編、5編 【文系】 大学入試共通テストの演習
学習方法	授業進度に合わせて、復習を中心とした学習を行う。生物の多様性と共通性に着目し、全体のシステムを理解しながら各事象の意義を理解する。	授業進度に合わせて、復習を中心とした学習を行う。生物の多様性と共通性に着目し、全体のシステムを理解しながら各事象の意義を理解する。	授業進度に合わせて、復習を中心とした学習を行う。自ら疑問点を見出し、生物学的に探究する姿勢で各事象の意義を理解する。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	生物基礎「第1編 生物と遺伝子」 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	・生物の共通性、細胞の構造、酵素の働き、呼吸・光合成などの代謝について理解できる。 ・遺伝情報を担うDNAについて理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。
1年夏休み	前期の復習		
1年9～12月	第2章 遺伝子とそのはたらき 発展 遺伝情報の発現 生物基礎「第2編 ヒトの体内環境の維持」	・生物基礎を発展させ、遺伝子発現の制御や遺伝子を扱った技術、その原理と有用性、課題について理解できる。 ・体内環境＝体液の存在と意義を理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。
1年冬休み	9月～12月の復習		
1年1～3月	第3章 ヒトの体内環境の維持	・自律神経とホルモンについて理解できる。 ・様々なフィードバック調節について理解できる。 ・免疫システムについて理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。
2年春休み			
2年前期	生物基礎「第3編 生物の多様性と生態系」 第4章 植生の多様性と分布	・植生について、階層構造や遷移のしくみを理解できる。 ・世界と日本のバイオームについて理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。
2年夏休み	前期の復習		
2年9～12月	生物基礎「第3編 生物の多様性と生態系」 第5章 生態系とその保全	・生態系の成り立ちについて、身近な例から地球レベルの環境問題まで学び、自然環境の保全の大切さを理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。
2年冬休み	9月～12月の復習		
2年1～3月	生物「第1編 生物の進化」 第1章 生物の進化	・生物が共通の祖先から進化してきたこと、またそのしくみについて理解できる。 ・生物を系統に基づいて分類できることを理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。
3年前期	生物「第2編 生命現象と物質」 第2章 細胞と分子 第3章 代謝 「第3編 遺伝情報の発現と発生」 第4章 発生と遺伝子発現	・生命現象を担うタンパク質を中心に細胞の働きと関連づけて理解できる。 ・呼吸、光合成、窒素同化のしくみを学ぶことで、生命活動に必要なエネルギー変換のしくみを理解できる。 ・発生と遺伝子発現を関連づけて理解できる。	問題集の発展問題に取り組み、理解できるようにする。さらに、重要問題集に取り組む。
3年夏休み			
3年9～12月	生物「第4編 生物の環境応答」 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答 「第5編 生態と環境」 第7章 生物群集と生態系 問題演習	・動物が外界からの刺激を受け取り、その刺激に応じて反応するしくみを理解できる。 ・植物が環境変化を受容し、応答するしくみを理解できる。 ・生物群集、物質生産、生物多様性について理解できる。	入試問題など発展的な問題に取り組み、理解を深める。
3年冬休み			
3年1～3月	問題演習	共通テスト演習、二次記述演習	発展的な課題への理解を深める。

芸術(音楽)

教科の特徴 個々の表現の技能、感性、知識を磨きながらグループによるアクティブラーニングにより、レベルの高い作品を個人、グループ、団体で表現する。

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)
学習概要	読譜力、楽典、音感、感性、の基本を知る。	読譜、音感、感性を磨きよりよい音楽表現をする。	総合的に音感、音楽性を磨く。
学習内容	呼吸法、発声の基礎、独唱、合唱、器楽アンサンブル、音楽史、鑑賞	呼吸法、発声の応用、独唱、合唱、器楽アンサンブル、鑑賞、創作	ソルフェージュ、歌唱
学習方法	個々に読譜力をつける。グループでアクティブラーニングの手法を用いて磨き合う。	個々の感性を磨き、アクティブラーニングの手法を用いてよりよい演奏を作りあげる。	個々にトレーニングを行う。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	独唱、劇音楽鑑賞	呼吸法発声法独唱、読譜力を上げる	発声、イタリア語、ドイツ語等の発音に気を付けて歌を表現する。
1年夏休み			
1年9～12月	独唱、合唱、器楽、名曲鑑賞	毎回のノルマまで音程を取り歌えるようにする。器楽曲の譜読みを正確に行う。曲の背景を知り名曲に親しむ。	合唱曲を曲らしい表現で歌う。同じパートの音色フレージング強弱をそろえる指導をする。楽器を原曲に近い曲想で演奏する。
1年冬休み			
1年1～3月	高校音楽祭で合唱発表(普通科)、日本音楽史、ヴォイスアンサンブル、器楽アンサンブル	発表曲の音程、歌詞を正しく歌える。日本の伝統音楽を鑑賞する。グループ演奏では自分のパートを全うする。	発表曲の内容を深く理解し、表現する。また自分のパートをまとめる。日本の伝統音楽について正しく理解し、鑑賞できる。
2年春休み			
2年前期	独唱、オペラ等鑑賞、器楽	自分の選んだ曲の音程、歌詞を完成させて発表する。世界の名曲を楽しむ。器楽では自分のパートを間違い無く演奏する。	声量、発音、今日全体のメリハリを考えて独唱を歌いきる。鑑賞では、曲の背景を考えながら聴き取る。器楽演奏では、音楽的な表現を行う。
2年夏休み			
2年9～12月	独唱、合唱、器楽合奏	合唱では自分のパートを責任をもって音程、強弱などに注意して歌う。合奏ではリズムを正しく理解し演奏する。	合唱曲を曲らしい表現で歌い同じパートの音色フレージング、発音、強弱をそろえる指導をする。パートバランスにも気を配る。器楽曲を原曲に近い曲想で演奏する。
2年冬休み			
2年1～3月	創作の基礎 創作発表	機能と声の基礎を学び、規則にそった作曲を行いグループで発表する。	機能と声の規則の範囲でより美しい曲を作り、グループ全員を生かした編曲でグループ発表を行う。
3年前期	ソルフェージュ全般、歌唱、器楽、楽典	基本的な音感をチェックし、より正確に歌えるようにする。単旋律の聴音ができる。演奏技術の向上を図る。	基本的な音感をチェックし、良い発声で正しく音程を歌い、4声体の聴音ができる。演奏技術の向上を図る。
3年夏休み			
3年9～12月	ソルフェージュ全般、歌唱、器楽、楽典楽典	基本的な音感をチェックし、より正確に歌えるようにする。4声体の聴音になれる。演奏技術の向上を図る。	音感をチェックし、良い発声で正しく音程を歌い、4声体の聴音ができる。演奏技術の更なる向上を図る。
3年冬休み	演習	聴音、楽典チェック	聴音、楽典チェック
3年1～3月	演習	聴音、楽典チェック	聴音、楽典チェック

芸術・美術

教科の特徴

美術を学ぶことで創造的な思考力・表現力を高め、個性や自他における価値観の多様性を見出し、感性を磨き情操を養う。

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)[選択]
学習概要	絵画等の基礎を学び、表現する。	表現方法を追求し、高める。	主体的に課題設定し、創作する。
学習内容	・教科書や意見交換、鑑賞等を通じて思考し、素材の特性を活かして作品制作をする。 ・観察する力を磨き、遠近法や構図等を理解して、応用する力を身に付ける。	・教科書や意見交換、鑑賞等を通じて思考を深め、表現方法や完成度を高め、個性的な作品制作をする。 ・色彩や内外の伝統的な美術を理解し、表現活動に活かす。	・興味・関心に応じた題材や課題を自己設定し、発展的な実技演習等を行う。
学習方法	・計画的に完成できるように見通しを持ち、アイデアの構想を練り、必要な用具や材料の準備をする。 ・広い視野で様々な事象を見て、美術作品や身の回りの芸術に多く触れる。	・計画的に完成できるように見通しを持ち、アイデアの構想を練り、必要な用具や材料の準備をする。 ・広い視野で様々な事象を見て、美術作品や身の回りの芸術に多く触れる。	・必要な課題を見つけ、追求したい点や技法について熟慮する。 ・デッサンやクロッキー等を可能な限り行い、描写力や構成力をつける。 ・作家や他者の作品から、良い点を発見して学びとる習慣を持つ。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	【普通科】鉛筆デッサン「静物画」 【理数科】鉛筆デッサン「静物画」	・線の描き方や形のとり方、透視図法等の遠近法を習得し、観察眼を高めて絵画の基礎を身に付ける。 ・構図や構成要素を考えて、モチーフを設定する。	・自分の表現を客観的に評価し、技法を活かして、一つの絵画作品として仕上げる。 ・自らを客観視でき、他者への適切な助言ができる。
1年夏休み			
1年9～12月	【普通科】立体造形「ポップアップカード」、油彩「静物画」 【理数科】立体造形「ポップアップカード」、日本画「植物写生」	・具体物を観察して、その特徴や造形の面白さを平面で表現する。 ・三面図や展開図を立体に置き換えられるようになる。	・材料の特性を理解して活かし、平面や立体の多彩な表現を通して、その題材に応じた完成度の高さを追求する。 ・従来のものを参考に、新しい展開図や動作の仕組みを創造し、立体カードに取り入れる。
1年冬休み			
1年1～3月	【普通科】水墨画「扇子制作」 【理数科】ガラス工芸デザイン「グラスリッツェン」	・伝統的な芸術について理解し、特徴や美に親しむ。 ・自由な発想を広げて、その題材ならではの表現と制作の楽しさを味わう。	・筆勢や余白、隈(くま)等を用い、伝統的な水墨画の表現を追求する。 ・愛着をもって長く使用できるデザイン性の高い作品を制作する。
2年春休み			
2年前期	ビジュアルデザイン「文化祭ポスター」	・デザインの役割やねらいを踏まえた作品を考え、制作する。 ・色彩の基本知識を理解し、色彩計画を練り、着色をする。 ・デジタルでの制作方法を用い、下絵を制作・提出する。	・印刷された仕上がりを想定し、発想の面白さ・色彩・構成等によって見る人に強い印象と内容が伝わる作品を作る。 ・作品の個性を引き立てるレタリングをする。
2年夏休み			
2年9～12月	立体造形「モザイクブロックデザイン」、油彩「風景画」「想像画」(選択)	・目的に適した日常生活に役立つ使い易いデザインを考える。 ・各自の興味・関心に応じた題材を見つけ、主体的に制作する。	・強度や構造を考慮し、機能美を追求する。 ・油絵の特徴や長所を活かした表現をする。
2年冬休み			
2年1～3月	ガラス工芸デザイン「グラスリッツェン」	・素材の円みを活かした装飾的なデザインとは何かを考え、グラスリッツェンの魅力である繊細なグラデーションを点描で表現する。	・点描の数を増やし強さを調整することで、繊細な表現や出来上がりの美しさを追求する。 ・題材を引き立てる最適なモチーフを見つけ出す。
3年春休み	添削指導		
3年前期	絵画表現「音楽の絵画表現」、クロッキー「人物クロッキー」、課題研究「自由制作」	・聴覚からの情報や感性を、色や形を用いて構成し、表現する。 ・クロッキーの楽しさを体感し、観察力や線描表現の幅を広げる。	・他者も共感できるものとして表現するものを一般化し、自分らしい個性を交えて制作する。 ・線の面白さや魅力を追求する。
3年夏休み	添削指導		
3年9～12月	課題研究「自由制作」	・課題やつけたい力を個々に応じて設定し、主体的に取り組む。	・必要とされる表現力を高め、効率よく制作できるようにする。
3年冬休み	添削指導		
3年1～3月			

芸術(書道)

教科の特徴 書道の活動を通して、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

学習目標

	高1	高2	高3
学習概要	基礎・基本の習得	高1の内容を踏まえて展開	高1・高2の内容を踏まえて展開
学習内容	「漢字仮名交じりの書」 「漢字の書」 「仮名の書」 「鑑賞」	「漢字仮名交じりの書」 「漢字の書」 「仮名の書」 「鑑賞」	「漢字仮名交じりの書」 「漢字の書」 「仮名の書」 「鑑賞」
学習方法	1 書道の学習はよく見る大切である。 2 作者や時代背景など様々な事について考え、自ら分析する姿勢が必要です。 3 臨書学習では、各古典の特徴を捉え、技法の習得をして自己表現とつなげましょう。		

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)		
1年前期	書写から書道へ、漢字の書、県硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校国語科書写で学習した、基本的な知識・技能を確認できる。 ・さまざまな古典や古筆の臨書学習により、基礎的な知識を身につける。鑑賞・臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得できる。 ・県硬筆展課題に取り組みることができる。 ・用具・用材の種類や姿勢や執筆法の基本を学習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校国語科書写で学習した、基本的な知識・技能を確認し説明することができる。 ・さまざまな古典や古筆の臨書学習により、基礎的な知識を身につけ表現できる。鑑賞・臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得し表現できる。 ・県硬筆展課題に取り組み、入賞することができた。 ・用具・用材の種類や姿勢や執筆法の基本を学習し、工夫することができる。 		
1年夏休み	ノート整理				
1年9～12月	漢字の書、篆刻、仮名の書				
1年冬休み	ノート整理、県書きぞめ課題				
1年1～3月	漢字仮名交じりの書、鑑賞				
2年春休み	ノート整理				
2年前期	漢字の書				
2年夏休み	ノート整理			<ul style="list-style-type: none"> ・各古典の用筆・運筆、結構を習得することができる。 ・学習した古典を題材とし、習得した技法を生かして作品制作を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各古典の用筆・運筆、結構を習得し表現することができる。 ・学習した古典を題材とし、習得した技法を生かして作品制作を工夫し創作活動を行うことができる。
2年9～12月	漢字の書				
2年冬休み	ノート整理、県書きぞめ課題				
2年1～3月	仮名の書、漢字仮名交じりの書、鑑賞				
3年前期	漢字の書				
3年夏休み	ノート整理				
3年9～12月	漢字の書	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、準備することができる。 ・書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成するよう配慮することができる。 			
3年冬休み	ノート整理、県書きぞめ課題				
3年1～3月	仮名の書、漢字仮名交じりの書、鑑賞				

保健体育(体育)

教科の特徴 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質能力を養う。

学習目標

	高1(基礎)	高2(応用)	高3(探究)
学習概要	(1)健康と安全に関する習慣を身につける。 (2)基礎体力を高める。	(1)運動や健康についての課題を発見し、仲間と協力して解決する。	(1)運動を合理的・計画的に実践する。
学習内容	大高体操(自校体操) 集団行動 学習規律 礼儀作法 健康安全の確保 ◎明るく楽しく元気よく!		
	自己の体力課題の把握 体力の高め方 運動習慣の確立と継続	課題・目標設定／課題解決方法 運動技能・構造・戦術・特性の理解 役割分担と貢献／作戦戦術の立案 PDCA	種目選択 練習計画の立案と実践
学習方法	主体性 公正(ルールを守る／フェアプレイ) 協力 責任 参画(話し合い等に参加しようとする)		
学習方法	(1)体育における予習は「日常生活における健康管理」であると捉え、心身共に良好の状態にて授業に臨むことができるよう努める。 (2)集団行動の主体的な実践により、仲間と協力し一体感を得る。 (3)リーダーシップを発揮する。または発揮しようとする者に進んで協力し、リーダーをリーダーにする。 (4)2クラス同時展開とする。(理数科は単独)	(1)自己やチームの課題を発見し、解決方法を探す。運動の構造や技能にも着目する。 (2)役割分担やポジションを理解し、チームへの貢献方法を思考し実践する。 (3)戦術・戦略を考えたり教え合うことで協働性を高める。 (4)適切な目標を設定し、目標達成に向けた努力をする。また、より強い達成感を得る。 (5)2クラス同時展開とする。(理数科は単独)	(1)これまでの学習を踏まえ、運動種目の決定・学習計画の立案・実行・振り返りを生徒主体で行う。 (2)ほぼすべての活動をクラス単位(男女共修)で行う。 (3)理数科を含め3クラス同時展開とする。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年4月～3年間(通年)	(1)集団行動 (2)大高体操(自校体操)	(1)大高体操を習得・実践できる。 (2)元気よく発声し体操ができる。	(1)大きな動きで手先・足先まで伸ばすことを意識してできる。 (2)3年間高いクオリティを維持し実践できる。
1年4～5月 2年4～5月 3年4～5月	(1)体づくり運動 (2)新体力テスト	(1)自己の体力課題を把握できる。	(1)自己の体力課題の解決のためのトレーニング方法等について探求・実践できる。
通年 ※領域選択	【球技】 サッカー／バレーボール(1年) ラグビー(1年)／バスケットボール バドミントン／卓球 ハンドボール(2年) ※3年は球技選択 (上記種目+ソフトボール 計9種目)	(1)基本的な用具操作・ボール操作について理解し習得できる。 (2)各種目の特性および基本的なルールについて理解できる。 (3)勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができる。 (4)安全に留意して活動できる。	(1)作戦や状況に応じた技能を活用し仲間と連携してゲームを展開することができる。 (2)自己や仲間・他者の動きや技能を観察し良い点や修正点を指摘できる。 (3)自己やチームの役割を認識し、練習やゲームの中で貢献できる。 (4)自己やチームの課題を発見し、改善方法等について提案できる。
	【武道】 柔道(1・2年)	(1)武道特有の礼儀作法を実践できる。 (2)基本的な立ち技・抑え技を身につけることができる。 (3)相手を尊重し安全に留意して活動できる。	(1)相手の動きの変化や防御に応じて得意技や連絡技を用いることができる。 (2)自己や仲間の動きを分析し良い点や修正点について指摘できる。 (3)危険回避の方法について提案できる。
	【ダンス】 創作ダンス・現代的なリズムのダンス(2年)	(1)みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わうことができる。 (2)イメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けることができる。	(1)イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることができる。 (2)仲間の表現や踊りを認め合うなど、互いに共感し高め合おうとすることができる。
	【器械運動】 マット運動(1年)	(1)安全に留意して活動できる。 (2)回転系・技巧系の基本技を滑らかに行うことができる。	(1)自己や仲間の動きを分析し良い点や修正点について指摘できる。 (2)課題に対し意欲的に挑戦できる。
1年10～12月 2年10～12月 3年10～11月	【陸上競技】 長距離走	(1)体力を向上させる。 (2)長時間走り切る精神力・忍耐力を身につける。 (3)走行姿勢・呼吸法等について自己に合ったものを見つけ、実践できる。	(1)適切な目標設定と振り返りができる。 (2)自己の体調の変化に応じたペース配分ができる。 (3)自己の記録に挑戦することができる。

保健体育(保健)

教科の特徴 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質能力を養う。

学習目標

	高1(基礎～応用)	高2(応用～探究)	高3
学習概要	(1)健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習する。 (2)健康課題を認識し、科学的に思考判断し、適切に対処できるようになることを目指す。 (3)生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎および実践力を培う。		
学習内容	※下記参照		
学習方法	(1)主に教科書の内容に沿って単元ごとに学習を進める。 (2)意見や考え方の共有/グループワーク/ブレインストーミング/ロールプレイング/実習・実験/調査研究・発表/プレゼンテーション/課題研究等を積極的に取り入れる。 (3)現実に行っている事象に対して課題意識を持ち、解決方法を探る。またそれらを表現する。		

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年	【現代社会と健康】 (1)健康の考え方 (健康課題・意思決定・行動選択) (2)現代の感染症とその予防 (3)生活習慣病などの予防と回復 (4)喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 (5)精神疾患の予防と回復 【安全な社会生活】 (6)安全な社会づくり(交通安全) (7)応急手当・心肺蘇生法(実習)	(1)基本的かつ正しい知識を得ることができる。 (2)実生活に基づいた事実として捉えることができる。 (3)得た知識を基に課題を発見できる。 (4)課題の解決方法を思考し判断することができる。 (5)課題の解決方法を表現できる。	(1)ノートや資料を丁寧にわかりやすく記述・整理できる。 (2)現代社会の変化や実生活における様々な事実と関連付けて理解し思考判断できる。 (3)事実やデータを適切に選択・分析・活用して整理できる。 (4)筋道を立てた明瞭な説明や創意工夫されたプレゼンテーションができる。
2年	【生涯を通じる健康】 (1)生涯の各段階における健康 (思春期・結婚生活・妊娠出産・加齢) (2)労働と健康 【健康を支える環境づくり】 (3)環境と健康(環境汚染・環境衛生) (4)食品と健康(食品安全・食品衛生) (5)保健・医療制度(医薬品) (6)保健活動や社会的対策 (7)健康環境づくりと社会参加	(6)学習を基に自らの健康観を持つことができる。 (7)学習成果を実生活に活かすことができる。	(5)ブレインストーミングやグループワーク等で積極的に発案し意見をまとめ、リーダーシップを発揮することができる。 (6)実習や実験を通し、実証的な問題解決を自ら主体的に行うことができる。

家庭

教科の特徴 自立の基礎となる衣・食・住、消費生活について学び、人の一生を考え、より良い生活を築くための力を培う。

学習目標

	高1	高2	高3
学習概要	自立した豊かな生活を営むための知識と技術を主体的に学ぶ。		社会の一員として自分を取り巻く背景を考えながら自立した豊かな生活を実現していく実践力を学ぶ。
学習内容	青年期の自立、家族・子ども・高齢者 衣食住・消費・環境について、自分自身の生活について主体的に考え、実践していく力を身につける。		1年生での基礎的既習事項を深め、自らの生活をより豊かなものにするため、実践的かつ応用力を身につける。
学習方法	授業や実習・実験等の体験的な学習をとおして知識・技術を習得、グループワークでは自他の考えから主体的・協働的に学習する。		授業での活動を通して、自分の考えを深め、さらに、自らを取り巻く生活や社会における課題を探究する。

主な学習項目と到達レベル

	教材(予定)	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	第1章 これからの人生について考えよう 第2章 自分らしい生き方と家族 第7章 衣生活をつくる	①自立した生活者となるため、基礎的な知識・技術を身につけ、主体的に自らの生活を営む実践力が身についている。 ②既習事項を活用し、持続可能なより良い生活を実現するため、問題解決に取り組むことができる。	①自立した生活者となるため、基礎的な知識・技術を幅広く活用できる実践力が身についている。 ②既習事項を活用し、持続可能なより良い生活を実現するため、多様な視点を持って問題点を見出し解決に取り組むことができる。
1年夏休み	・ホームプロジェクト(探究学習)		
1年9～12月	第6章 食生活をつくる 第8章 住生活をつくる 第3章 子どもとかがわる		
1年冬休み			
1年1～3月	第4章 高齢者と関わる 第5章 社会とかがわる 第9章 消費行動を考える 第10章 経済的に自立する		
2年春休み			
2年前期			
2年夏休み			
2年9～12月			
2年冬休み			
2年1～3月			
3年前期	探究学習 衣生活と今後の課題 ・消費・環境及び住生活と今後の課題	①1学年「家庭基礎」の学びを深化させ、社会の一員として多様な視点から、よりよい社会構築に向けて家庭や地域社会の問題点を見出し、解決策を導ける実践力が身についている。 ②自ら見出した解決策を評価・改善し、根拠に基づき更に探究を深めることができる。	1学年「家庭基礎」の学びを深化させ、社会の一員として多様な視点から、よりよい社会構築に向けて家庭や地域社会の問題点を見出し、自ら導き出した解決策で社会に参画できる実践力が身についている。
3年夏休み			
3年9～12月	探究学習 ・食生活と今後の課題 ・子ども・高齢者・社会福祉と今後の課題		
3年冬休み			
3年1～3月	・1年間の探究学習総まとめ		

情報

教科の特徴 情報活用能力を身につけ、座学・実習を通して、情報を的確に扱えるようになる。

学習目標

	高1(基礎)	高2	高3(応用)
学習概要	情報の基礎的な知識・技術を学ぶ		情報の応用的な知識・技術を学ぶ
学習内容	情報デザイン・プログラミング・高度情報化社会について・問題解決		情報社会の発展と情報技術・コミュニケーションとコンテンツ・データサイエンス・プログラミング・問題解決
学習方法	授業内での実習と、授業前後の基礎学習		授業内での実習と、授業前後の基礎学習

主な学習項目と到達レベル

	予定	到達レベル(全員)	学究レベル(上位者)
1年前期	プログラミング	プログラミングの基本構造の理解	リスト、関数、整列、探索の理解
1年夏休み	プログラミング課題	簡単なプログラムを自分で作れる	実用的なプログラムを自分で作れる
1年9～12月	情報社会・情報デザイン・デジタル	情報社会・デザイン・デジタルの基礎知識を理解する	メディアリテラシーが高く、デジタルの知識を生かして様々なコンテンツを作成できる
1年冬休み			
1年1～3月	ネットワーク・問題解決	ネットワークの基礎知識の理解 問題を発見し、発表や改善案を考 えることができる	情報技術を適切に活用し、問題の 解決に際して、統計資料や論文など を活用し、一般化した問題解決をす ることができる
2年春休み			
2年前期			
2年夏休み			
2年9～12月			
2年冬休み			
2年1～3月			
3年前期	情報社会の発展と情報技術・コミュニケーションとコンテンツ・プログラミング	情報コンテンツの作成や発表ができる 内部関数などを活用し、中規模程度 のプログラムが自分で作れる	日常生活に有用な情報コンテンツや 発表ができる データベースや外部関数などを活 用し、応用的なプログラムが自分で 作れる
3年夏休み			
3年9～12月	データサイエンス・プログラミング	ビッグデータを活用したデータ活用 や、応用的なプログラムの作成がで きる。	様々な問題についてデータ活用し、 分析する力や、プログラムを作成 し、課題解決することができる
3年冬休み			
3年1～3月	問題解決	自分の身の回りの問題を解決する ための意見や考えをまとめることが できる	現代社会における問題を解決する ための意見や考えをまとめることが できる